

# 「理想の終の棲家」は老人施設

## シースタイル調査 70代以上の3割が回答

不動産関連の比較査定  
サイトを運営するシー  
スタイル（東京都中央区、  
川合大無社長）は、6月  
5日の老後の日（神戸市  
老人福祉施設連盟制定）

に合わせて「終の棲家」に  
関する調査を実施した。  
同サイトを利用した50歳  
以上の男女300人を対  
象に調べたところ、「終  
の棲家を考えていない」

70代が4割を超えている  
ことがわかった。70代以  
上の約3割が「理想の終  
の棲家は老人ホーム」だ  
とした。  
理想の終の棲家で最も

多かった回答は「現在の  
家」（37・6％）だった。  
「賃貸アパート・マンシ  
ョン」（9・0％）、  
「中古分譲マンション」  
（7・7％）、「サービ  
ス付き高齢者向け住宅」  
（7・0％）が続いた。  
ただ、50代で1％台だ  
った有料老人ホームや特  
別養護老人ホームは、70

代になると、「有料老人  
ホーム」で17・7％、  
「特別養護老人ホーム」  
が11・8％と大幅に増加  
し、約3割が老人施設を  
理想としている結果が出  
た。新築建売住宅は、すべ  
ての年代で0％だった。  
アンケート全体の62・4  
％が住み替えや買い替え  
を希望している。

「老後に暮らしたい場  
所」の質問は、現在の家  
（45・3％）が最も多く  
70代以上では55・9％と  
なって「理想の終の棲家」  
との回答で現在の家（38  
・2％）とした回答と開  
きがある。理想の終の棲  
家と老後に暮らしたい場  
所はイコールではないと  
考えている人がいること

もわかった。  
「現在より生活利便性  
の高い都心」（10・7％）、  
「現在より生活利便性の  
高い地方都市」（8・3  
％）、「実家」（7・3  
％）、「現在より田舎」  
（6・0％）など郊外や  
田舎よりも生活利便性の  
高い場所での暮らしを考  
えている傾向が出た。